

市町村名		伊是名村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-① 観光地等クリーンアップ事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-ア			
	担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖繩振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	本村に数多く点在する史跡や文化財を地域資源として活用していくため、村内の各種イベントで使用する会場や観光施設、観光ルート等の草刈り作業や花壇等の環境整備を行い、花木等の植栽など美化活動を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,000	35,000	35,000	45,000	54,092	
		(b) 予算現額	29,600	39,084	35,000	44,000	64,224	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 5,400	4,084	0	▲ 1,000	10,132	
		(d) 繰越額	—					
	A. 計(b+d)		29,600	39,084	35,000	44,000	64,224	
	B. 執行済額		28,730	39,084	34,027	43,362	62,929	
	うち交付金充当額		21,375	31,267	27,214	34,689	50,343	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		97.1%	100.0%	97.2%	98.6%	98.0%	
予算の状況の説明		予算は当初と比べ増額しているが、予算現額に対する予算の執行率が98.0%の理由として天候不良による作業の中止などが原因であると考えられる。だが、ほぼ計画通り執行できたため、適正であったと考えられる。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	観光ルート等の雑草の除去及び華城の植栽、肥培管理の実施		目標 ( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )		
	祭り会場(1カ所)、フットパスコース(1カ所)、集落内外(5カ所)、フラワーロード(4カ所)、観光施設等(5カ所)		実績 実施	実施	実施	実施		
達成状況説明		観光ルート等の雑草の除去については現場の状況に応じた草刈り作業を実施するとともに、花木の植栽や植栽後の定期的な肥培管理についても、散水・草取り作業・追肥等を計画的に実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (24年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (1年度)	
			目標	( )	( )	( 80% )	( 80% )	( )
	観光地周辺の景観形成について、観光地としてふさわしい景観であると感じるかを含め(80%以上)、当該事業のあり方をアンケートにより実施する。		実績			99%	97%	
	進捗状況説明		本事業を客観的にみるため、来客者に対し観光地の景観についてのアンケートを実施した。「満足した」と回答した方が80.5%「やや満足した」と回答した方が17%となり、合算して97%の方が満足したという結果となっており、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・成果目標の数値が目標額より上回った要因として、観光地の景観維持・形成を目的としているため、観光客を対象にアンケートを取ったことで客観的な意見として97%の方が満足しているとの結果になった。 しかし、夏季の猛暑時期や梅雨などの雨天中止で作業効率下がり、除草作業が遅れてしまい、景観維持の向上が図れない場合があった。</p>	<p>・成果目標を達成したが、今後は観光地アンケートを観光客だけでなく、地元民も対象に加え定住者の意見も取り入れながら事業を実施する。 ・夏場や梅雨時期の作業効率の低下については雨天中止となった週の土日・祝日を作業効率の改善を図るために、振替の作業日として設定する。</p>

**今後の取り組み方針**

本年度より、乗用式芝刈り機・ピーチクリーナーの導入により、作業工程の簡略化、アンケートを介しての意見を取り入れ作業計画の見直し、雇用形態の見直しを図り、作業効率の低下を防ぐため作業場所の振り分け、雨天時に可能な作業の創出などを行い、就労者の就業意欲の向上、観光地としての魅力度も向上を図り、作業員の安全衛生講習を行い作業効率の維持・向上に努めていける環境を構築する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
62,929	62,929	50,343	12,586	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定について、臨時職員は公募により雇用を行っており、その他の経費についても村の会計規則に基づき適切に選定されている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、当初と比べ約3%ほど不用額が生じたが賃金に関して雨天中止などによる実績積算に係るものであり見込み額としては適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等についての額の確定時において支出等に関する書類により確認、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊是名村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-② いぜな尚円王まつり支援事業		事業実施(予定)年度		平成24～令和3年度	沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		
	担当部課名		工商観光課		沖繩振興基本方針該当箇所	第3章-3-(12)-7 観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本村の魅力を発信し、観光客の誘客を図るため、いぜな尚円王まつりにおいて、各字・島外文化交流、マリンレジャー、スポーツ交流、各種体験プログラム等を実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	6,000	7,000	7,000	7,000	7,000
		(b) 予算現額	-	6,000	7,000	7,000	7,000	7,000
		(c) 増減額(b-a)	-	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-					
		A. 計(b+d)	-	6,000	7,000	7,000	7,000	7,000
	B. 執行済額		-	6,000	7,000	7,000	7,000	7,000
	うち交付金充当額		-	4,800	5,600	5,600	5,600	5,600
	次年度繰越額		-	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	いぜな尚円王まつりの開催支援		目標 (開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)		
			実績	開催支援	開催支援	開催支援		
			目標 ( )	( )	( )	( )		
		実績						
達成状況説明	「いぜな尚円王まつり」を実施する実行委員会への支援を行うことで、例年と同様の規模で開催を行うことができた。イベント開催にあたり、ポスターやチラシの作成などイベント周知並びに、誘客のためのステージイベント、尚円王を活用したツアーを実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	来場者数: 2,500人以上		目標 ( )	( 2,000人 )	( 1,040人 )	( 2,500人 )	( )	
			実績	740人	2,475人	2,411人		
	【参考指標】		目標 ( )	( )	( )	( )	( )	
			実績					
進捗状況説明	・目標来場数には僅かに届かず、前年度なみの来場者数となったが、概ね目標は達成できたと考えている。 ・2日目実施はできたが、イベント中に悪天候となり、その影響により来場者数が減少した。							

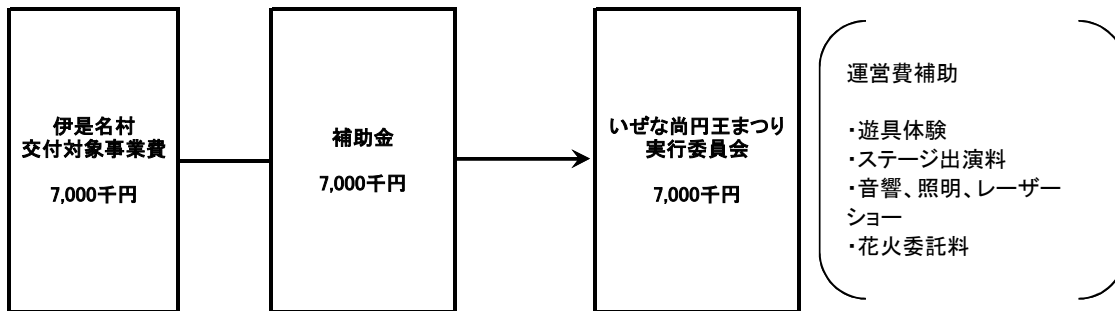
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・アンケート調査を実施したところ、満足度は高く、引き続きプログラムの充実化を図っていくが、認知度についてはHPやSNSを活用した広報活動を実施したが、高い効果は得られなかった。周知方法について検討する必要がある。</p>	<p>・来場者の増加を図るため「尚円王の生まれた島」として、尚円王に関連した展示ブースや史跡を活用したツアーなどを取り入れた特色あるイベントであることを広くPRするため、SNSや広報誌を利用した広報活動の見直しを検討する。</p>

**今後の取り組み方針**

・尚円王の生誕地としての特殊性を活用し、尚円王歴史関連ツアーや展示ブースを継続的にプログラムに取り入れる。また、ツアーを行う前には講演会等を開催し、プログラムにストーリー性を持たせることにより、本イベント及び本村の特色ある歴史を紹介し、本村の魅力を発信し認知度向上を図る。また広報活動については、マスメディアや人気サイト等を活用し効果的にPRできるよう努めていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,000	7,000	5,600	1,400	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。</p> <p>○費目・使途目的について、支出調査・書類により確認を行い適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
<b>令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-③	いげな88トライアスロン大会支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-7		
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光客の誘致を図るため、いげな88トライアスロン大会の開催を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	70,000	7,000	—	—	5,500
		(b) 予算現額	70,000	7,000	—	—	5,500
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	—	—	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		70,000	7,000	—	—	5,500
	B. 執行済額		7,000	7,000	—	—	5,500
	うち交付金充当額		5,600	5,600	—	—	4,400
	次年度繰越額		0	0	—	—	0
	執行率(%) (B/A)		10.0%	100.0%	—	—	100.0%
予算の状況の説明		・計画どおり達成でき、予算執行も適正であったと考える。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	いげな88トライアスロン大会の開催支援	目標	( 開催支援 )	( — )	( — )	( 開催支援 )	
		実績	開催支援	—	—	開催支援	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	・「第32回いげな88トライアスロン大会」を実施する実行委員会に対し、大会開催に係る備品やリース料、スタッフ経費などの補助を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		いげな88トライアスロン大会参加者の満足度80%以上	( )	( — )	( — )	( 80% )	( )
		実績	—	—	72%	—	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績	—	—	—	—	—
	進捗状況説明	・目標値には僅かに届かなかったが概ね目標は達成できたと考えている。 ・当日は台風の影響により、競技を短縮したことにより、目標値を達成できなかったと考えている。					

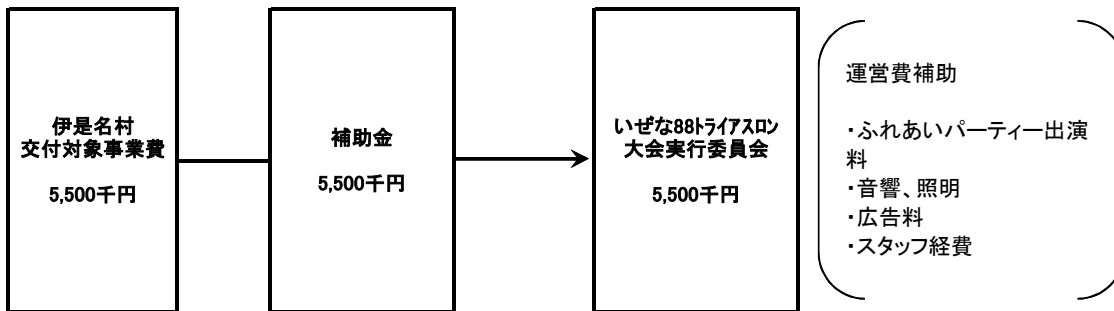
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・目標値に届かなかった要因として、H29年、H30年と悪天候のため中止となり、R1年は悪天候のため競技短縮したことが要因と考える。</p>	<p>・H29年、H30年、R1年と開催前に台風が発生し中止又は競技短縮しているため開催時期の再検討が必要である。</p>

**今後の取り組み方針**

・参加者への早めの情報発信や不測の事態(台風や悪天候)に備えた対応を検討し、開催時期の見直し、運営体制の強化に努める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,500	5,500	4,400	1,100	0



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。</p> <p>○費目・使途目的について、支出調査・書類により確認を行い適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 「尚円王(金丸)生誕の村」整備事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア		
	担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖繩振興基本方針該当箇所	沖繩の文化源流を確認出来る環境づくり	
				Ⅲ-1-(1)			
事業内容	魅力ある歴史の島づくりを進め、更なる誘致による観光振興を図るため、PR活動を行う一方、尚円王に関する文化財の修復・復元を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		80,000	42,606	31,900	11,977	16,064
			80,491	34,350	31,900	12,005	12,172
			491	▲ 8,256	0	28	▲ 3,892
			-	-	-	-	-
		80,491	34,350	31,900	12,005	12,172	
	B. 執行済額		73,075	32,586	29,028	11,977	12,172
	うち交付金充当額		58,459	26,068	23,222	9,581	9,737
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.8%	94.9%	91.0%	99.8%	100.0%
予算の状況の説明		令和元年度予算については、事業計画通り執行が完了している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	①旧蔵品修復・復元の完了	目標	(完了)	(完了)	(完了)	(完了)	
		実績	完了	完了	完了	完了	
		目標	( )	( )	( )		
		実績					
達成状況説明		銘苅家・名嘉家旧蔵品修復復元業務については、銘苅家・名嘉家の旧蔵品である、古文書、漆器類、金工品の修復や復元、図面作成を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	旧蔵品修復復元の完了	目標	( )	(完了)	(完了)	(完了)	( )
		実績		完了	完了	完了	
	【令和元年度成果目標】旧蔵品を活用した祭時への来場者数		目標	( )	( )	(100)	(240)
		実績			232	183	
進捗状況説明		銘苅家・名嘉家の旧蔵品修復・復元については、漆工芸、古文書、金工品、陶器類の調査・修理・復元を実施し、完了することができた。また、旧蔵品の模造復元資料を用いた祭祀行事である「公事清明祭」への来場者数を計測し、目標値240人のところ183人の来場となり、目標を概ね達成した。					

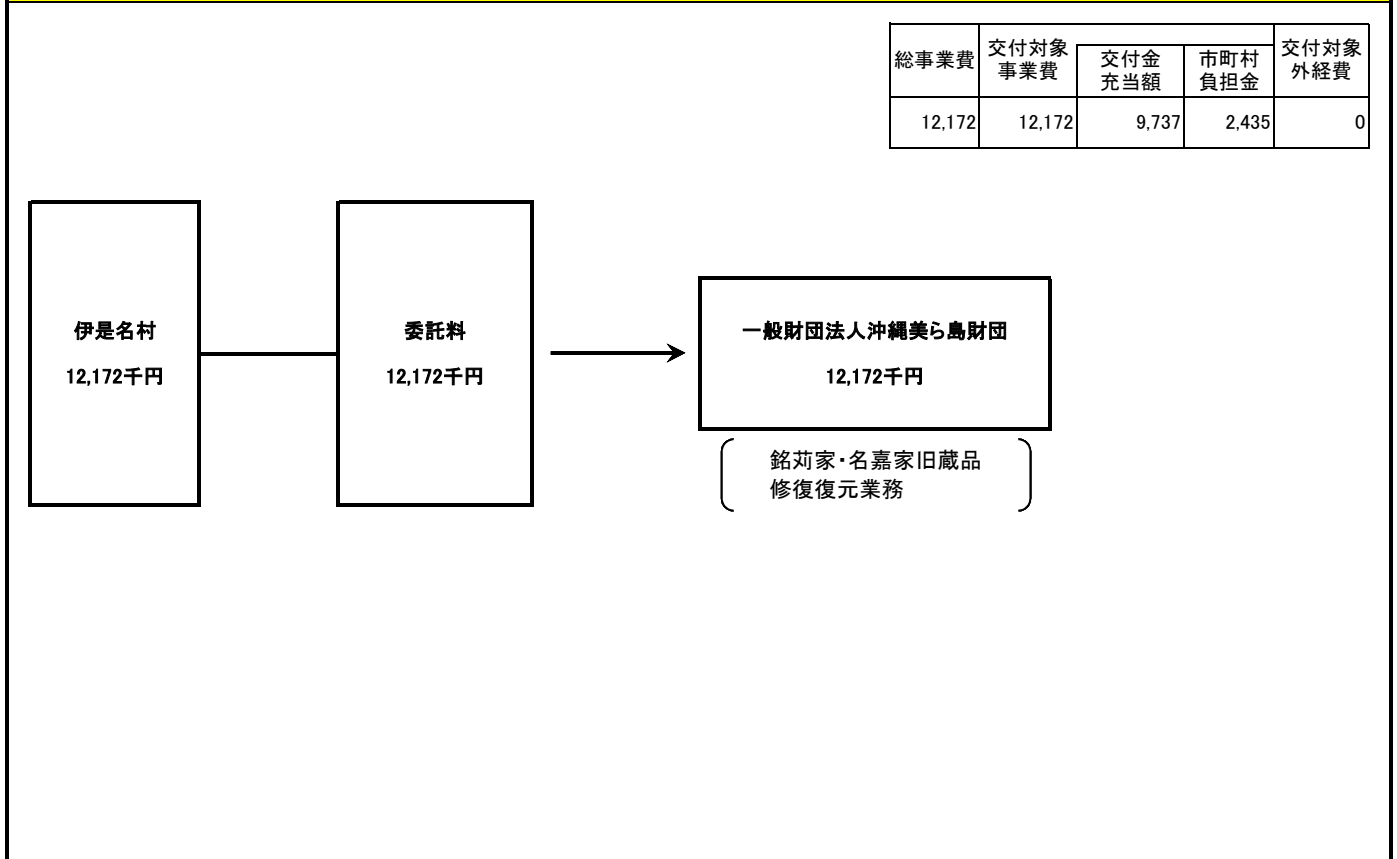
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧蔵品の修復については、熟練した技術を要する職人による手作業となることから、1件あたりの作業時間が膨大となるため、早急な修復・復元資料の引渡が必要となってくる。</li> <li>原物資料を修復する際には、文化財保存修理の現状維持の原則に準拠して、過度な修復を行わない等の対応が求められる。</li> <li>模造復元資料を活用した公事清明祭の開催については、観光客への周知不足が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧蔵品の修復・復元については、選定業者及び職人との間で密な業務調整を行い、早い段階での作業着手を実現する。</li> <li>修復を担当する各分野の職人との調整をとおして、適切な修理手法を選択し、資料を必要最低限の措置で修理する。</li> <li>これまでは公事清明祭の開催日時について、電話にてお問い合わせ頂いた方に回答する形で対応していたが、これでは効果的な周知にはならないため、村広報や村ホームページを活用する他、関係機関への周知を徹底し、多くの観光客が来場するような周知活動を積極的に展開する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・修復・復元の対象となる資料は、古文書、漆工品、金工品等の種類があり、それぞれの素材や状態によって用いる手法が異なるため、最善の方法を選択して行く必要がある。そのためには、選定業者との密な調整を行い、適宜資料を確認しながら業務を進めていくことが求められる。

・模造復元資料を活用した公事清明祭の開催について、不特定多数の方々に周知する目的から、村ホームページ等を活用し広く周知を実施すると共に、当該行事及び本事業の解説・取り組み内容についてのパネル展示等を実施することで、来場された観光客の理解度・満足度を醸成する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○銘苅家・名嘉家旧蔵品修復・復元業務については業務の特殊性を踏まえて一社随契を予定し、且つ価格性の確保から複数の業者からの見積りにより選定していること等から、適正であった。 ○予算規模については、事業内容に見合った適正な規模であったと考える。 ○実績により成果物、書類等を精査し、委託料を確定しており、妥当と考える。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目・使途の点検評価



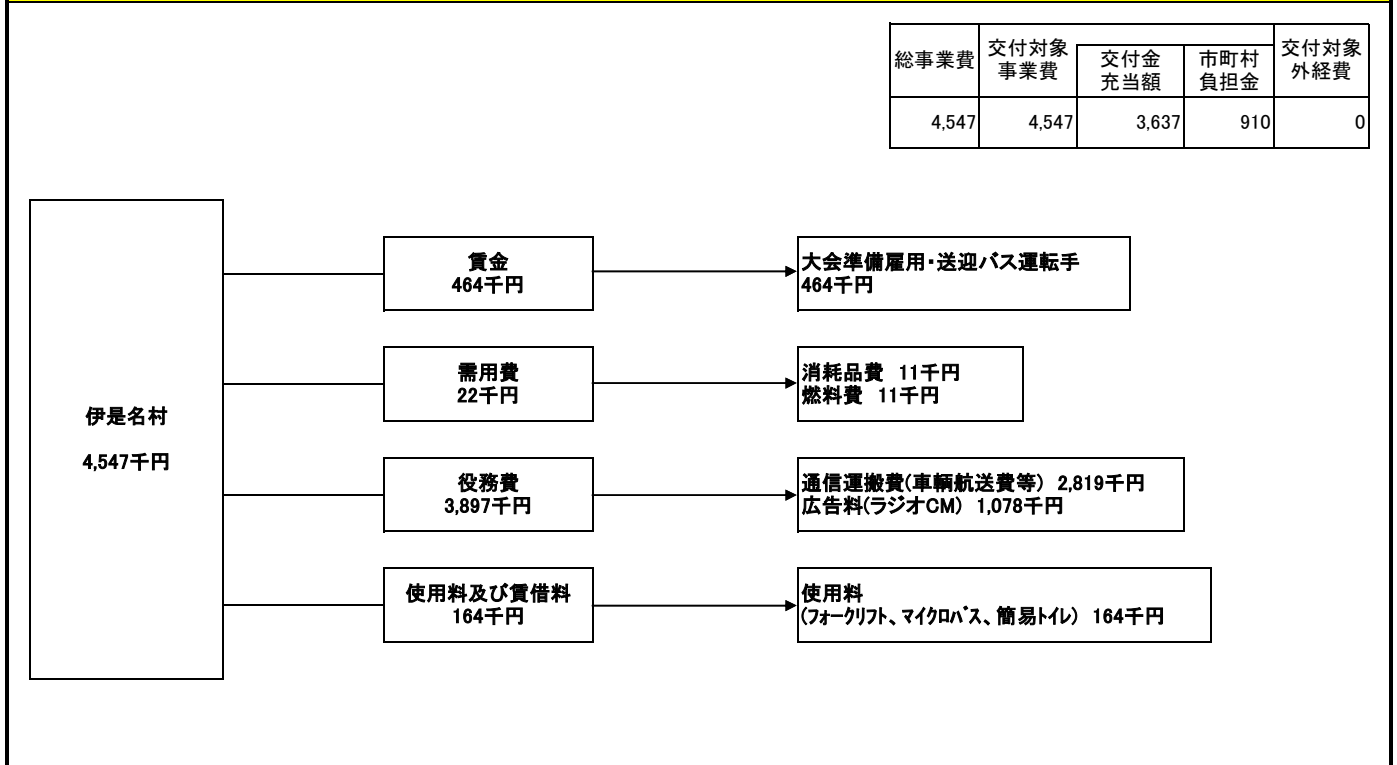
市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 伊是名モータースポーツ支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
	担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度		平成26~令和3年度	観光リゾートの振興	
事業内容		観光誘客を促進するため、場外離着陸場を活用した新たなイベント事業として、モータースポーツ大会を支援する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,942	15,030	11,722	14,732	13,663
		(b) 予算現額	11,324	12,372	10,282	6,963	6,531
		(c) 増減額(b-a)	▲ 6,618	▲ 2,658	▲ 1,440	▲ 7,769	▲ 7,132
		(d) 繰越額	—	—	0		
	A. 計(b+d)		11,324	12,372	10,282	6,963	6,531
	B. 執行済額		11,324	12,336	10,282	6,963	4,547
	うち交付金充当額		9,059	9,868	8,225	5,570	3,637
	次年度繰越額		0	0	0		0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	69.6%
予算の状況の説明		大会の開催数が減ったことで不用が生じる見込みとなった為、7,132千円を減額し、事業を実施した。今回の執行率に関しては、1月の変更申請の段階で、2月の大会分の費用を残す必要があり想定していた額よりも費用が少なくなった為、執行率の減少につながった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ドラッグレース大会の開催	目標	( 3 )	( 2 )	( 3 )	( 2 )	
		実績	3	2	2	2	
	ドリフト大会の開催	目標	( 3 )	( 2 )	( 2 )	( 0 )	
		実績	2	1	2	0	
	ジムカーナ大会の開催	目標	( 2 )	( 3 )	( 2 )	( 2 )	
実績		2	3	1	2		
達成状況説明	・ドラッグレース大会の開催につきましては、当初予定では3回だったが開催者側のエントリー数確保困難などがあり、1大会中止となった。 ・ドリフト大会の開催につきましては、当初予定では3回だったが開催者側のエントリー数確保困難があり、3大会中止となった。 ・ジムカーナ大会の開催につきましては、当初予定していた大会を計画通りおこなうことができた。 それぞれの大会における関係スタッフの船賃、レース車及び関係車両の航送料の助成、マスコミを活用しての事前コマースを行う等、開催支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	モータースポーツ大会来場者数	目標	( )	( 900人 )	( 880人 )	( 587 )	( )
		実績		914	625人	626	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	今回の来場者数の目標である587人以上を達成することができた。 今後、大会の継続等による知名度の向上など、地道な取り組みを維持する必要がある。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島外から多くの観戦者を受け入れる為、運航日程の変更対応は引き続き必要である。</li> <li>・大会開催時期によって観戦者数にムラがあり、安定した数を確保できていないのが現状である。また、大会エントリー者も大会開催時期で集まりが変わって来るため、大会運営側との調整を行う必要がある。(エントリー側が少ない時に観戦者が多くなったり、また、逆の場合もある。)</li> <li>・大会終了後の会場内で観戦者及び、エントリー者の飲食ゴミが多く発生することから、大会運営側との調整を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントリー者側と観客者の時期的な差があることから、運営側との大会開催時期を観戦者が多い時期におこなっていけるかの検討する。</li> <li>・飲食ゴミについて、観戦者及び、エントリー者の飲食ゴミの処分を運営側と検討する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・大会開催時期を観戦者が多い時期に回数を行えるか検討する。
- ・ゴミの処分について運営側と検討する。
- ・大会の模様を、SNSなどで発信し、モータースポーツの楽しさ、魅力を発信していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積により選定しており、妥当であったと考える。 ×5次申請で減額したが、2月の大会があった為、その大会分を残す必要性があり、想定していた予算よりも実際にかかった費用が少なかったため、執行率の減少に繋がった。 ○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。
	×	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	いいな運天港いちやり場まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章—3—(12)—ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	三村の交流を図るとともに、観光誘客を促進するため、伊是名村・伊平屋村・今帰仁村の三村共同で、「いいな運天港いちやり場まつり」を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		1,100	1,100	1,300	1,300	1,300
			1,100	1,100	1,300	1,300	1,168
			0	0	0	0	▲ 132
			—				
		B. 執行済額	1,100	1,064	1,232	1,300	1,167
		うち交付金充当額	880	851	985	974	933
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	96.7%	94.8%	100.0%	99.9%
		予算の状況の説明	当初の予算より13万2千円減になった理由として出演者等に関して事務局で対応したためその差額分である。その他の予算についてはおおむね計画通り執行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	「いいな運天港いちやり場まつり」の支援	目標 ( 支援実施 )	( 支援実施 )	( 支援実施 )	( 支援実施 )		
	実績	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施		
	達成状況説明	三村合同で観光誘客を促進するため「いいな運天港いちやり場まつり」を支援を行った。昨年同様に羽地内海のフェリー遊覧、花火、まぐろ解体ショーを実施するなどイベント誘客に向けた取り組みを実施することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	来場者数:1100人以上	目標 ( )	( )	( 1100人 )	( 1100人 )	( )	
		実績		1121人	1084人		
	進捗状況説明	実績値として1084人(98.5%)という結果となり、目標値には僅かに届かなかったが、当日は天気にも恵まれ、羽地内海の遊覧ツアー、各村の伝統芸能・特産品販売等のPRを行うことができた。目標を達成するためには、イベントプログラムと広告の見直しを検討する必要がある。					

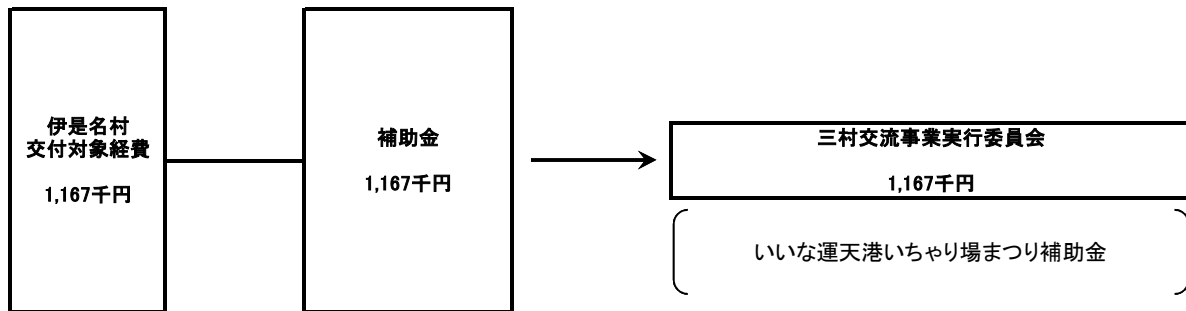
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・今回で第7回目ですが、例年の来場者数をみると実績数で1100人前後と横ばいであり、数字を見るとリピーターとなっている来場者が多いと感じる。新規の来場者を迎え実績数を増やすことが観光誘客につながると思う。</p>	<p>・毎回広告をテレビ・ラジオ・各村広報誌にて実施しているが、広告の範囲を広げるために、三村外の市町村に対し広く周知する必要がある。          ・また、他市町村のイベント時期と重なる傾向にあるため来場者が増えないと考え、祭りの開催時期に関しても見直す必要がある。</p>

**今後の取り組み方針**

・伊是名村・伊平屋村・今帰仁村が祭りの実施について連携しあって事業を遂行していくために、適宜かつ綿密に会議・連絡を取り合い三村の連携を強化していく必要がある。次年度においては好評であるフェリー遊覧だけでなく工夫を凝らしたプログラムを組み、特産品・伝統行事の紹介や三村の魅力を存分に発揮できるよう努めていく。  
 また、広告の種類(電光掲示板・シール等)を増やし、近隣市町村の観光施設・商業施設等に掲載を行う。少しずつでも三村外の市町村民に対して認知していただくように三村のみで実施していたポスター広告も範囲を広げていく必要がある。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,167	1,167	933	234	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は三村交流事業実行委員会(事務局・今帰仁村)への補助金であり適切である。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても13万2千円不用が出たが、これは出演料に不用額が出たためであり、そのほかに関しては事業内容に見合った額支出しており適切である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途に関しては事業目標達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村
------	------

**令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	1-⑦ 沖縄らしい風景づくり推進事業	事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-7
				沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-1-(1)
担当部課名	企画政策課				

**事業内容** 魅力的な観光地としての景観形成を図るため、景観形成活動を行う団体に支援する。

**効果発現年度**  当年度  後年度( 年度)

**実施方法**  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,750	1,000	7,000	1,000	1,000
	(b) 予算現額	1,000	7,000	1,000	1,000	1,000
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,750	6,000	▲ 6,000	0	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)	1,000	7,000	1,000	1,000	1,000
	B. 執行済額	1,000	6,645	1,000	1,000	1,000
	うち交付金充当額	800	5,316	800	800	800
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	94.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	当初計画通り適切な執行ができた。					

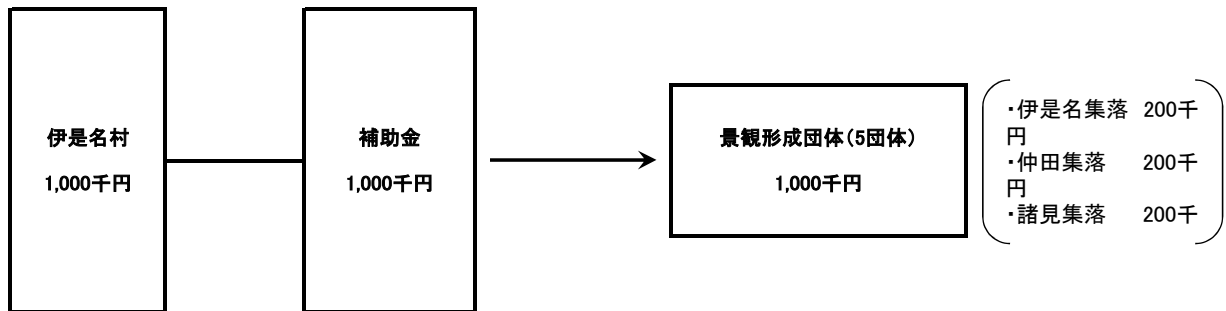
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
景観形成への支援 団体支援→5団体	目標	( 団体支援5団体 赤互助成1件 )	( 団体支援5団体 )	( 団体支援5団体 )	( 団体支援5団体 )
	実績	団体支援5団体 赤互助成1件	団体支援5団体	団体支援5団体	団体支援5団体
達成状況説明	景観形成活動団体として登録された村内5団体へ助成し、各団体は、花植えや草刈り、雑木の選定作業等、集落内の景観創出に積極的に取り組んだ。その結果、集落景観に調和した潤いと彩りのある風景となり、沖縄らしい景観の創出により村の観光産業に貢献することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		観光地としてふさわしい景観であると感じるかを含め(80%以上)、当該事業のあり方をアンケート調査により検証する。	目標	( )	( 80% )	( 80% )
進捗状況説明	実績		81%	83%		
観光客の満足度について、観光客が多く来島するイベント時期に合わせ、アンケート調査を実施した。本村の集落景観についてよいと感じたかという設問に対して、アンケートに記入した398人の回答を集計した結果、「大変そう思う」「やや思う」の回答者が332名であった。満足度83%の回答を得られ、目標値を達成することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・観光客満足度調査の結果から「集落内のゴミ」について、悪い印象を与えている等の回答を一定数確認した。またゴミの問題について不満を抱いている回答者は、観光地としての総合満足度も低いことが明らかとなった。</p> <p>・昨年度、団体の活動時期にバラつきがあり、効果検証がしづらいという反省点があったことから、今年度は団体の代表者に対し、イベント時期に合わせて景観形成活動を行うようお願いしたところである。しかし、2団体はイベント時期とは関係のない時期に実施していた。</p>	<p>・従来、団体は、集落内の景観形成のため、植栽や緑化、また景観阻害要因となる雑草や雑木の選定等の作業を実施している。今後はこれらの活動に加え、集落内のゴミ収集についても実施するよう各団体の代表者と調整する必要がある。</p> <p>・満足度調査は今後も引き続き実施する予定である。よって、団体の代表者には、観光客が多数訪れるイベント時期に合わせて景観形成活動を実施してもらおう周知する。イベントシーズンに合わせて活動した方が活動の成果について把握しやすく、また事業の問題点の洗い出しもしやすい。</p>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>今回の満足度調査において得た回答者(観光客)からの指摘事項も踏まえ、今後の事業からは、上記で洗い出した問題点(集落内のゴミ)について、収集に協力してもらおう各団体の代表者へ周知徹底を図る。また、よりよい事業となるためには、団体が実施した活動に対する効果の検証も適宜行わなければならない。よって、全団体がイベント時期に合わせて活動してもらったほうが事業の効果も把握しやすいため、その点を整理し、魅力的な観光地としての景観形成を図る。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,000	1,000	800	200	0



資金の流 れの点 検評 価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に基づき決定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定通り執行されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○実績報告に基づき書類等検査し、経費については対象経費に限定されている。

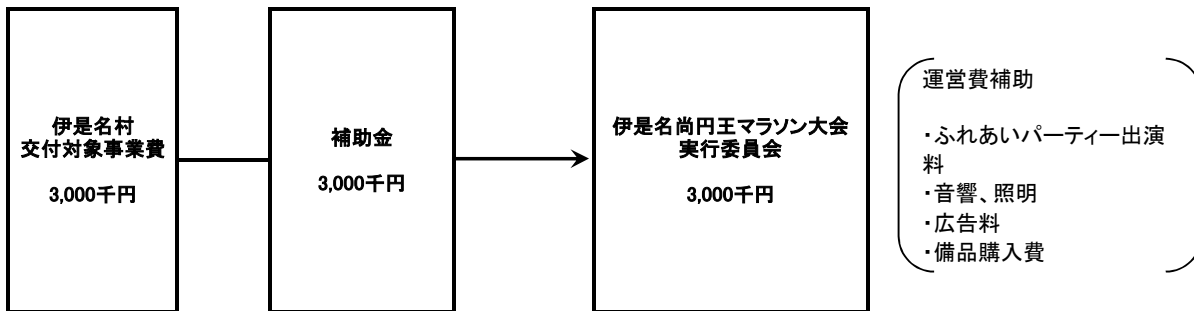
市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧ 尚円王マラソン大会支援事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-7		
	担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度		沖繩振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光客の誘致を図るため、尚円王マラソン大会の開催を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	11,000	5,000	3,500	3,000
		(b) 予算現額	-	11,000	5,000	3,500	3,000
		(c) 増減額(b-a)	-	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	-	11,000	5,000	3,500	3,000
	B. 執行済額		-	11,000	5,000	3,500	3,000
	うち交付金充当額		-	8,800	4,000	2,800	2,400
	次年度繰越額		-	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	尚円王マラソン大会支援		目標 ( 大会の支援 )	( 大会の支援 )	( 大会の支援 )	( 大会の支援 )	
			実績 大会の支援	大会の支援	大会の支援	大会の支援	
			目標 (            )	(            )	(            )	(            )	
			実績				
達成状況説明	尚円王マラソン大会を実施する実行委員会に対し、大会開催に係る備品やリース料、広告料等の補助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	島外からのエントリー者数:181人		目標 (            )	( 600人 )	( 293人 )	( 181人 )	(            )
			実績	139人	171人	268人	
	【参考指標】		目標 (            )	(            )	(            )	(            )	(            )
			実績				
	進捗状況説明	目標エントリー者数については268人となっており、目標を達成した。宣伝効果やイベントの認知が図られたことと、前大会参加者への大会情報周知(募集チラシの配布)や団体申込枠を設けたことが増加した要因と考える。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・関係機関との協力やソーシャルメディア、マスメディアを活用した広報活動、新たなメニュー開発が目標値達成の要因と考える。しかし、イベント内容、募集方法や大会の認知度についてはいまだ課題があると考えており、周知方法等について検討する必要がある。</p>	<p>・新たなメニューとして団体申込枠を設けたことが好評であったので継続的に実施することにより、「家族・チーム」での参加を促し、インターネットでも申込が可能になるよう調整を行う必要がある。</p> <p>・ソーシャルメディアやマスメディアを活用した広報活動は継続的に実施し、ゲストランナーを招待することにより、さらなる周知強化及び参加者の満足度向上に取り組む必要がある。</p>

今後の取り組み方針
<p>・団体申込の募集がインターネットで申込できなかったため、インターネットでの申込が可能になるよう調整を行う。</p> <p>・「家族・チーム」での参加者が増加するようなプログラム内容を検討し、イベント内容の充実化に努める。広報活動については、ゲストランナーを招待、ソーシャルメディアを活用することで、県内外のランナーに大会情報を発信し周知強化を図る。また、前大会参加者には継続的に大会の案内を行い、リピーターの確保に努める。</p>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,000	3,000	2,400	600	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。</p> <p>○費目・使用目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 伊是名村自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(11)-7		
	担当部課名	商工観光課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減
事業内容		離島の不利生を解消し、定住促進を図るため、沖縄本島の今帰仁村運天港と本村を結ぶフェリーの自動車航送運賃を軽減する。					Ⅲ-9
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,757	11,982	13,001	13,063	13,117
		(b) 予算現額	12,028	13,060	13,340	13,063	13,115
		(c) 増減額(b-a)	271	1,078	339	0	▲ 2
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		12,028	13,060	13,340	13,063	13,115
	B. 執行済額		12,028	13,060	13,340	12,902	13,115
	うち交付金充当額		9,622	10,448	10,672	10,321	10,492
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%
予算の状況の説明		当初は、過去実績を踏まえ年間利用台数を6,250台と見込んでいたが、10月より消費税増税等により、6,231台に留まった。執行率は、計画どおり執行されており適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	自動車航送コスト支援の実施	目標	( 負担軽減 )	( 負担軽減 )	( 負担軽減 )	( 負担軽減 )	
		実績	負担軽減	負担軽減	負担軽減	負担軽減	
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶において、車輛航送運賃の助成を行ったことで、定期的に本島との往来を行うに際しての不利性が緩和されたことで、教育・医療・福祉の充実と定住条件の向上・村民の負担軽減に寄与した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( 80% )	( 80% )	( )
		実績			95.60%	90%	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	本事業により定住条件の構築が図られたかを検証するため、村民を対象にアンケートを実施した。90%が肯定的な意見となっており、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	土日・祝祭日や大型連休などにおいては、船舶の利用者が増え、旅客・自動車航送券の発券所が混雑し、船の定時運航に支障をきたす場合がある。要因としては、乗船券購入と併せて負担軽減申請を行うため発券所の混雑を招いている事や、窓口の対応に限られた人員である事などが考えられる。	窓口の混雑解消の対策として、広報誌や防災無線を活用し、事前の申請書記入の依頼を周知徹底することで、出航前の混雑緩和に寄与し、定時運航が確保できるようになると考えられる。
今後の取り組み方針		
・負担軽減申請について、事前に申請書に記入の上乗船券を購入していただけるよう広報等に掲載し周知を行った結果、窓口での混雑は緩和されつつあるが、自動車の事前予約等踏まえて、引き続き住民に対し協力を依頼していく。併せて、窓口対応に限られている現状の見直しとして、混雑解消を目的としたシステム化の導入等について検討しているが車両の確認等があるため、システム化に至っていないのが現状であり、今後の取り組みとして広報等の周知徹底し強化を図っていく。		

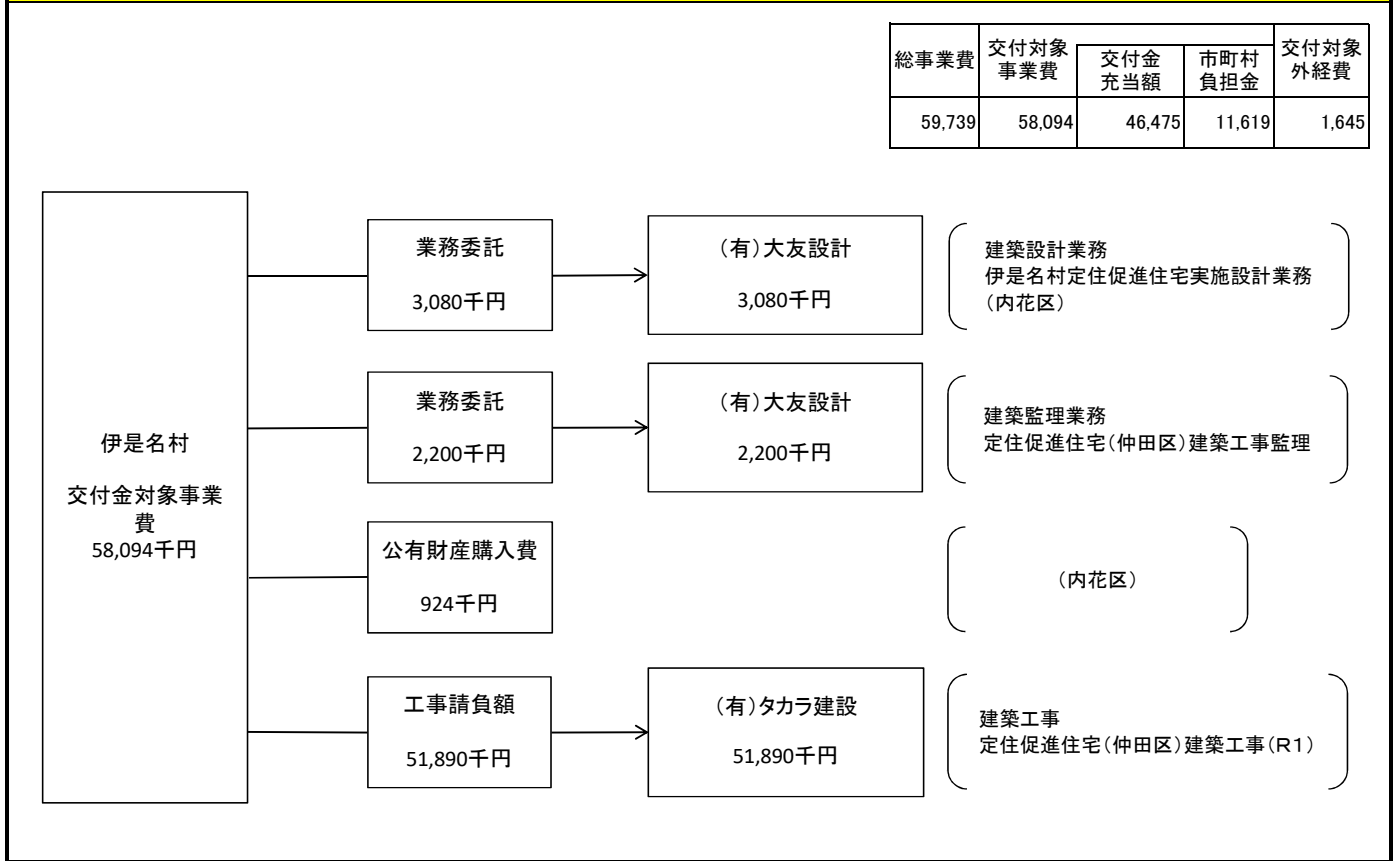
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	44,714	13,115	10,492	2,623	31,599
<b>伊是名村【一般会計】</b>  総事業費 44,714千円  交付対象事業費 13,115千円  伊是名村船舶運航事業特別会計へ繰出	<b>伊是名村【船舶運航事業特別会計】</b>  1台あたり【チケット代 × 台数(4月～9月)】 3m～4m(6,730円 × 2,375台 ≒ 15,984千円) 4m～5m(8,330円 × 756台 ≒ 6,297千円) 1台あたり【チケット代 × 台数(10月～3月)】 3m～4m(6,850円 × 2,365台 ≒ 16,200千円) 4m～5m(8,480円 × 735台 ≒ 6,233千円)  総事業費(自動車航送運賃総額)44,714千円  <b>【住民自動車航送チケット購入台数】</b>  1台あたり助成額【(2,090円 × (台数 4月～9月)) 2,090円 × (2,375台 + 756台) ≒ 6,543千円 1台あたり助成額【(2,120円 × (台数10月～3月)) 2,120円 × (2,365台 + 735台) ≒ 6,572千円  交付対象事業費(助成金)繰出金13,115千円	<b>自動車航送チケット購入台数</b> 4月～9月 2,375台 + 756台 = 3,131台① 10月～3月 2,365台 + 735台 = 3,100台② <b>総台数 ①+②= 6,231台</b>  <b>受益者負担</b> 44,714千円 - 13,115千円 = 31,599千円	請求 ←  繰出 →		

資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○船舶運航事業特別会計において、自動車航送券の発券及び集計を取り扱っていることから支払先は妥当と考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○住民が航送券を購入した実績を踏まえて事業を実施しており適正な予算規模と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○7割強を受益者が負担していることから、負担関係は妥当であると考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② 定住促進住宅整備事業		平成30～令和3年度		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
	建設環境課		事業実施(予定)年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上	
担当部課名						Ⅲ-9	
事業内容	本村は、北部地域の小規模離島が故に、民間による住宅供給が困難であることから、I・Uターンといった移住者等を受け入れられる環境が整っていない。沖縄県が人口増加傾向にある中、本村は過疎化が進行し、少子高齢化が顕著である。一つの要因として、住居不足による定住条件の不利性があるため、定住促進住宅を建築整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額				8,963	101,000
		(b) 予算現額				8,963	61,850
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 39,150
		(d) 繰越額	-			-	-
		A. 計 (b+d)	0	0	0	8,963	61,850
	B. 執行済額					8,963	59,739
	うち交付金充当額					7,170	59,739
	次年度繰越額					0	0
	執行率 (%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	96.6%
予算の状況の説明		活動目標どおり達成でき、予算執行も適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	建築工事(仲田区)の実施	目標	( )	( )	( )	( 実施 )	
		実績				実施	
	建築設計業務(内花区)の実施	目標	( )	( )	( )	( 実施 )	
		実績				実施	
達成状況説明	建築工事にあたり早期の着手を図り、無事故による年度内完成が実施出来たこと、実施設計にあたっては、前年同様、集落打ち合わせ調整を十分実施したことにより、計画どおり取組めたため達成出来たと考えている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	建築工事(仲田区)完了	目標	( )	( )	( 設計完了 )	( 建築工事1棟 )	( )
		実績				設計完了	建築工事1棟
	実施設計(内花区)完了	目標	( )	( )	( )	( 設計完了 )	( )
		実績				設計完了	
	進捗状況説明	住居不足による不利性の解消の為、R1年度に定住促進住宅建築工事(仲田区)1棟3戸を着手し、完成出来た。また、内花区の用地購入及び実施設計を完了した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・円滑な整備完了となるよう、適正工期設定のもと、取り組んでいくことが必要である。	・建築工事の適正工期確保に向けた早期の取り組みにより、事業の実施期間での不測な事情に対応でき改善することが可能となる。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかな建築工事の発注に向けた積算等、入札準備を早期に取り組み努めることで、早期の目標達成につなげる。</li> <li>・施工時には関連業者と連絡体制を密にし、不測の事象に対応出来る体制づくりを構築し、繰越等が発生しないように努める。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



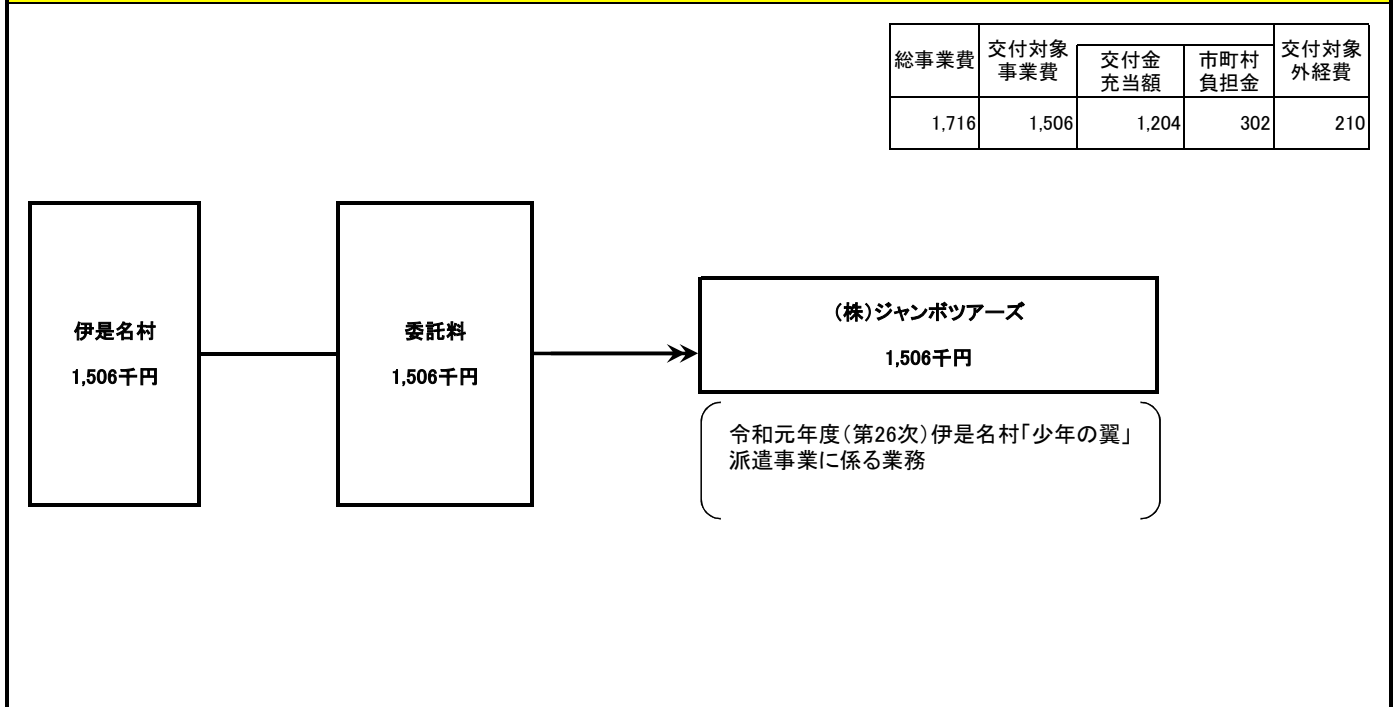
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、委託及び工事とも、指名競争入札により選定したので妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、建築の積算基準及び発注時期の単価に基づき積算したことから適正であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的のみに限定したことから妥当であったと考える。

市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① 人材育成事業(日高小との交流事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-1		
	教育振興課		事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度		豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
担当部課名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(1)		
事業内容	異なる生活圏で暮らす子ども達が、それぞれの地域を訪れ、その地域の自然や歴史、生活に触れ、体験学習・交流学习を通して広い視野と協調の精神を養うことを目的として、伊是名村の小学生を北海道に派遣し、日高小学校との交流学习・体験学習を実施した。具体的な取り組みとして、日高小学校6年生と伊是名小学校6年生を対象にし、日高小学校は11月頃、伊是名小学校は1月頃日高小学校を訪れる。ウインタースポーツ体験や学校訪問を行うとともに、伝統芸能等を相互に紹介し、それぞれの地域の自然や文化について学習する取り組みを実施した。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,606	1,524	2,100	2,100	1,540
		(b) 予算現額	1,606	1,570	2,100	1,923	1,506
		(c) 増減額(b-a)	0	46	0	▲177	▲34
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	1,606	1,570	2,100	1,923	1,506
	B. 執行済額		1,533	1,570	1,903	1,923	1,506
	うち交付金充当額		1,226	1,256	1,522	1,538	1,204
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.5%	100.0%	90.6%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画のとおり予定通り執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	日高小学校との交流会参加人数(児童10人、引率6人)		目標 (児童11人)	(児童14人)	(児童14人)	(児童10人)	
			実績 引率5人	引率5人	引率5人	引率6人	
			目標 ( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初派遣予定者10人の派遣を実施した。</li> <li>・沖縄とは異なる北海道の自然や生活に触れることで、子供たちの視野を広げ、自然体験や文化交流をとおして互いの地域を理解し、それぞれの地域の自然や伝統文化の大切さを実感してもらうことができた。日高町及び北海道の気候や文化・自然について事前学習を実施したほか、交流会においては村の歴史や自然・文化等について発表するなどの取り組みを実施した。</li> <li>・沖縄伝統のエイサーなどを日高小の児童・地域の方々に披露して沖縄の文化を伝えた。</li> <li>・北海道での交流体験について報告会を開催し、小学校高学年や地域住民等に報告したほか、感想文・派遣写真等の展示も行った。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	児童の協調の精神等の向上についてまとめた報告書の作成		目標 ( )	(作成)	(作成)	(作成)	( )
			実績	作成	作成	作成	
	島外の人との交流により、児童の視野が広がったと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検討する。		目標 ( )	( )	(80%)	(80%)	( )
			実績		100%	100%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流・体験学習を実施し、事業の概要等および交流・体験学習の狙い、事業の実施状況や交流会の様子等がわかる報告書を作成した。</li> <li>・村関係者や保護者向けに交流・体験学習の報告会を行った。報告会は児童が行い、交流・体験学習を通しての出来事、体験や反省等をグループ毎に発表した。</li> <li>・派遣終了後、保護者へのアンケートを実施し、人材育成事業(日高小学校との交流)により、児童の視野が広がったと感じたかという質問に対し、大きく広がった・広がったと全保護者が回答したことから、目標は達成されたと思われる。また、派遣後の児童の変化も見られるようになり、「以前と比べて積極的に行動するようになった」など、児童の変化を感じた保護者も少なくない。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度事業については、新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大前であったことから実施することとなったが、今後の流行状況を注視し、次回派遣については熟考する必要がある。</li> <li>普段とは異なる環境の中での生活や体験活動を行うため、寒冷地での安全対策を十分に講ずる必要がある。</li> <li>離島特有の閉塞環境において、外部との交流が希薄な状況下で、児童の視野を広げるための取り組みとして今後継続して実施していく必要があるとともに、本事業が目的を達成できているか否かについても検証を行う必要がある。</li> <li>工程の大部分においては、学習の關係上必要不可欠なプログラムとなっているため、固定化される必要がある。そのため工程の一部については、児童主体のリサーチをとおして目的地を決めるなど、事務局が一方向的に決定するのではなく、可能な限範囲で児童の意見も反映できる柔軟な工程作成が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症については、国内外において第二・三波の発生が懸念されている。事業の推進にあたり、事前の調整として両小学校、及び関係機関との情報共有に努め、併せて当該ウイルスの感染状況を加味して事業の執行を決定する必要がある。</li> <li>過年度までの事業実施状況から課題となり得る点を踏まえ、事前に安全対策を講ずる。</li> <li>事業終了後に、保護者に対してアンケートを実施し、派遣した児童の視野が広がったと感じるかについての設問を設けることで、目的の達成度を定量的に把握することが可能と考える。</li> <li>旅行業務の発注前までに学校側と調整を行い、児童各自で調べ学習を行う等して社会見学地の選定を検討することで、当該事業への意欲を促すとともに自主性の醸成へ紐付ける。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の動向について注視し、第二・三波の隆盛を見極め、派遣の可否について協議する。</li> <li>事務局担当及び引率者は、事前に宿泊施設マップを参照し避難通路の確認や打ち合わせを事前に行うなど、万一の事態に備えた安全管理・想定を行う。</li> <li>また、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、マスクの着用、アルコール等による手指消毒の徹底などに努める。また、体調不良者が発生した場合についても、フローを作成し、円滑に対応できる様取り組んでいく。</li> <li>派遣前までに、児童との学習をとおして意欲高揚と自主性の醸成を図る。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託事業者は例規に則った選定となっており妥当と考える。</li> <li>○予算規模については、事業内容を勘案して適切なものであったと考える。</li> <li>○予め受益者負担として保護者負担経費を設けていることから自分の負担がなされており、受益者との負担関係については妥当である。</li> <li>○費目、使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適切であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	児童生徒島外諸教育活動支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-7		
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	島外の児童との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせることを目的として、島外で開催されるスポーツ大会や文化事業発表会に参加する児童生徒に対し、渡航費を支援する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施      □委託      ■補助      □負担      □その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,230	1,700	2,060	2,040	2,180
		(b) 予算現額	1,930	2,160	2,598	2,040	2,180
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,300	460	538	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	1,930	2,160	2,598	2,040	2,180
		B. 執行済額	1,789	1,952	2,422	1,964	1,785
		うち交付金充当額	1,431	1,561	1,937	1,571	1,421
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	92.7%	90.4%	93.2%	96.3%	81.9%
予算の状況の説明	本年度は、台風及び海上時化等により船便欠航に伴い当初予算額より下回ったが、ほぼ計画どおり執行し適正であったと考える。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	島外教育活動への派遣費の支援:6団体	目標 ( 島外諸教育活動への派遣支援 )	( 島外諸教育活動への派遣支援 )	島外諸教育活動への派遣支援(6団体)	( 島外諸教育活動への派遣支援 )		
	実績	島外諸教育活動への派遣支援	島外諸教育活動への派遣支援	島外諸教育活動への派遣支援(7団体)	島外諸教育活動への派遣支援		
達成状況説明	児童生徒が島外諸教育活動に参加するため、離島という地理的条件のために生じる経費(船賃、宿泊費の一部)各団体に支援することができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	年度	目標値(年度)	
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目標 ( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )	
		実績	97.5%	95.0%			
進捗状況説明	児童生徒を島外派遣することで競技力向上や島外児童生徒と交流することによるコミュニケーション能力の向上にも繋がると考える。また、保護者アンケートを実施した結果、保護者の方が95%の割合で「島内ではできない経験をすることができた」と回答しており目標を達成することができた。						

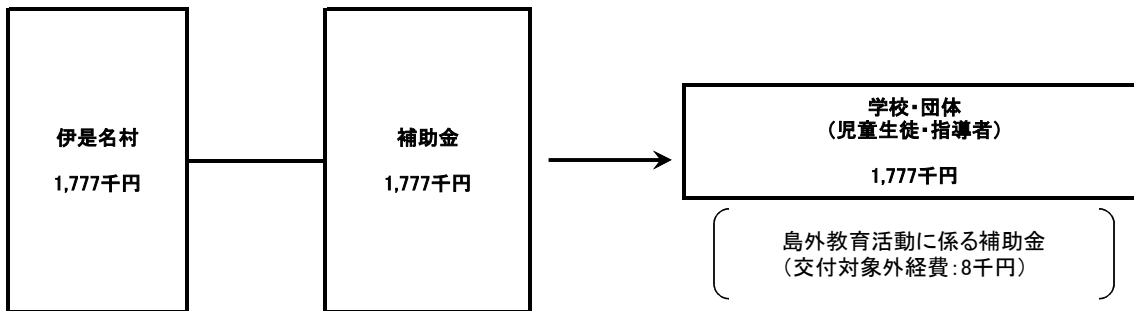
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・保護者からの意見として大半の保護者の方が事業に好感をもっている方が多いが、児童・生徒の意見としては、試合が終わると、すぐに帰島するため他校の生徒と一緒に練習し会話をすることにより、コミュニケーション能力は身につくなどの意見があり、今後は保護者及び児童・生徒の意見を参考に事業推進していく。	・日常的に児童・生徒と接している保護者の視点により検証していたが、今後は、更に児童・生徒の意見等を踏まえて、本事業の成果を確認し理解を得ながら事業を実施していく。

**今後の取り組み方針**

・R1年度の成果目標について保護者アンケート調査を実施したが、今後は児童・生徒向けのアンケート調査も追加して実施していくことで、保護者及び児童・生徒の要望を踏まえながら、本事業のあり方について検証していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,785	1,777	1,421	356	8

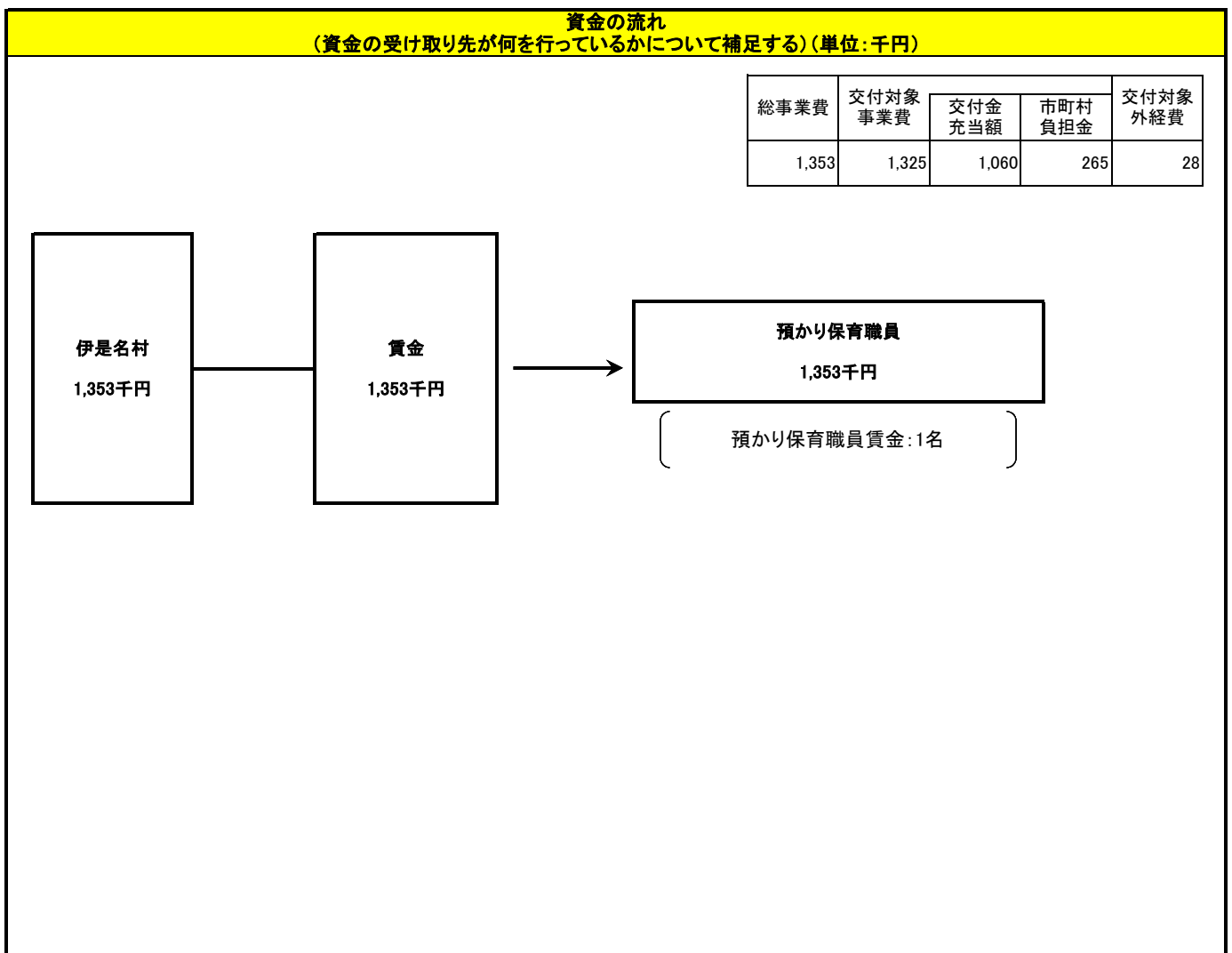


	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助対象者については交付要綱等に従って決定しており、支出先の選定方法は妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、派遣人数等に応じたものであり、適正な規模であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○渡航費及び宿泊費(上限有り)が主な補助対象経費となっておりその他は個人の負担となっていることから、受益者との負担関係は妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。



市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	幼稚園預かり保育支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-1	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 III-4	
事業内容	保護者の育児における負担軽減を図り、保護者が安心して仕事ができる環境づくりを実施するにあたり「幼稚園預かり保育」に必要な嘱託保育士を配置し、教育時間終了後の預かり保育を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額	1,175	2,501	2,783	2,605	2,869	
	(b) 予算現額	1,012	2,026	2,783	2,605	1,469	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 163	▲ 475	0	0	▲ 1,400	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)	1,012	2,026	2,783	2,605	1,469	
	B. 執行済額	1,012	1,788	2,189	2,377	1,353	
	うち交付金充当額	809	1,430	1,751	1,901	1,060	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.3%	78.7%	91.2%	92.1%	
予算の状況の説明	当初見積もった金額より保育士賃金が下回ったが計画どおり執行できた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	保育士の雇用:1人		目標 ( 1人 )	( 2人 )	( 2人 )	( 1人 )	
			実績 1人	2人	2人	1人	
達成状況説明	平成28年度よりすべての4歳児及び5歳児を対象にした、幼稚園2年教育がスタートし、令和元年度も保育士1名を雇用できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	年度	目標値(年度)
	保護者へのアンケートで、預かり保育により育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標 ( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )
			実績	90.5%	92.0%		
	進捗状況説明	「預かり保育は保育者にとって育児の負担軽減につながっているか」のアンケートに対し、90%以上の保護者が大いに当てはまると回答し、目標を達成できている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の内容についての保護者アンケート実施した結果、「満足・概ね満足」との回答を得ることができた。</li> <li>・現状保育士は確保できているが、退職等があると保育士の確保に苦慮することが予想される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の効果について、保護者向けのアンケートを実施し引き続き保護者から意見を参考にしながら、本事業の効果の把握に努める。</li> <li>・現在雇用している保育士の意向を十分把握し、退職等の情報を事前に把握できるようにし、早めの段階から確保に努める必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの回答結果や意見など踏まえて引き続き利用しやすい環境づくりと受け入れ体制強化を図っていく。</li> <li>・早い段階から防災無線等で周知し保育士の確保に努める。</li> </ul>		



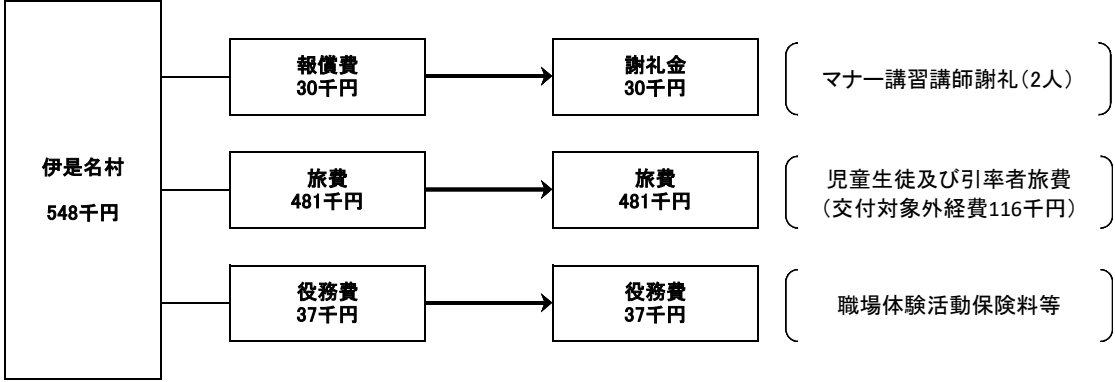
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○賃金については村規定に沿った形での支出となっており、妥当と考える。</li> <li>○予算規模については預かり保育を実施するための最低限の規模での予算規模となっており、適正と考える。</li> <li>○費目・用途については賃金のみでの支出であり、確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊是名村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-④ グッジョブ連携推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-7			
	担当部課名	教育振興課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖繩振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容		児童生徒に自己理解・自己実現に向けた意欲の向上、また、目的意識の高揚や就業意識の向上を図るため、小学校ではジョブシャドウイング、中学校では職場体験等のキャリア教育を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,569	990	946	660	831	
		(b) 予算現額	1,120	850	946	660	735	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 449	▲ 140	0	0	▲ 96	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	1,120	850	946	660	735	
	B. 執行済額		769	842	560	350	664	
	うち交付金充当額		614	673	448	279	439	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		68.7%	99.1%	59.2%	53.0%	90.3%	
予算の状況の説明		本年度は、ほぼ計画どおり執行し適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	R1年度		
	小学校:ジョブシャドウイングの実施 小学校5年生:10人 中学校:職場体験学習の実施 中学校2年生:12人		目標 (小学生15人 中学生19人)	(小学生16人 中学生10人)	(小学生10人 中学生10人)	(小学生10人 中学生12人)		
			実績 小学生16人 中学生17人	小学生11人 中学生9人	小学生9人 中学生9人	小学生10人 中学生12人		
達成状況説明		本事業を通して、児童生徒に自己理解・自己実現を図る意欲を向上させ、目的意識の高揚や就業意識の向上を高める活動の推進に向け、家庭・地域・行政が互いに連携を強化するとともに、小学校では地域教育資源の活用、中学校では勤労観・職業観を身に付けさせることなどを目的に、それぞれの活動を実施した。 具体的な内容としては、受け入れ事業所の協力により小学校が10月4日に琉球ジャスコイオン名護店にて実施し、中学校は11月11日～15日の5日間、生徒の希望する職場での体験をそれぞれ実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	年度	目標値(年度)	
			目標	( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		実績		77.8%	85.0%		
	進捗状況説明		児童生徒へアンケート調査を実施した「働くことについて興味・関心が湧いたか」を結果、85%の児童生徒が興味・関心が湧いていたと回答しているため概ね目標は達成できた考える。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・キャリア教育を行っていくにあたり、職場先での態度は褒められる生徒が多かった一方で、宿泊先でのマナーやルールが守れない生徒もいたため、今後は集団行動や公共施設での振る舞いを体験前に全体で確認する必要がある。</p>	<p>・職場体験時だけではなく常日頃から児童生徒へマナー等に関する指導を徹底する必要がある、その対策として職場体験実施前にマナー講座等の事前学習を行い、あいさつや礼儀作法など児童生徒へマナーに対する意識の高揚を図る。</p>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>・職場体験先だけではなく、常日頃からあいさつや礼儀作法などを習慣付けるよう学校・家庭・地域・行政で連携して取り組む必要がある。          ・職場体験実施後に各職場においての児童生徒が体験したことをまとめ事後学習を実施し、職業についての幅広い視野で将来に向けて大まかな方向性を決めることで自分の将来像を描きかけになり、児童生徒の職業に対する意識の高揚を図る。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
664	548	439	109	116



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については村の例規に則って選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について児童生徒の対象人数を踏まえたものであり適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤ 学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-7		
	担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
				Ⅲ-3-(1)			
事業内容	児童生徒の学力向上及び学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村営学習塾及び放課後教室の開講、学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,342	14,968	23,510	26,380	26,792
		(b) 予算現額	6,072	16,150	19,965	22,630	26,792
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,270	1,182	▲ 3,545	▲ 3,750	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	6,072	16,150	19,965	22,630	26,792
	B. 執行済額		5,648	14,473	18,680	21,063	26,562
	うち交付金充当額		4,518	11,578	14,944	16,850	20,626
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.0%	89.6%	93.6%	93.1%	99.1%
予算の状況の説明		本年度は、ほぼ計画どおり執行し適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学習支援員の確保:3人	目標	( 2人 )	( 3人 )	( 3人 )	( 3人 )	
		実績	2人	2人	2人	3人	
	週3日程度学習塾を開講	目標	( )	( 週5日 )	( 週5日 )	( 週4日 )	
実績			週3日	週3日	週4日		
達成状況説明	今年度は、学習支援員については目標値の3人で事業実施することができ、小学校の教育活動の支援及び学習に遅れのある児童の支援を行った。また、学習塾については、民間事業者へ公募型プロポーザルを実施し業者選定、週3日開講し民間学習塾のノウハウを取り入れた高い指導力と充実した内容で実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	①令和元年度沖縄県学力到達度調査での村と県の平均正答率の差 小学校 -6.0ポイント以上	目標	( )	( -6.0ポイント以上 )	( -6.0ポイント以上 )	( -9.1ポイント以上 )	( )
		実績		-18ポイント	-28.0ポイント	-14.8ポイント	
	②令和元年度沖縄県学力到達度調査での村と県の平均正答率の差 中学校 1.0ポイント以上	目標	( )	( 1.0ポイント以上 )	( 1.0ポイント以上 )	( 2.8ポイント以上 )	( )
		実績		11.3ポイント	-15.8ポイント	3.4ポイント	
進捗状況説明	①小学校については(小5の2教科平均)-14.8ポイントで目標未達成、②中学校についても(中2の5教科平均)3.4ポイントで目標達成。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・塾に参加していない生徒や部活後の塾では集中力が続かないなどの課題があげられる。	対策として児童生徒が入塾しやすい環境づくりが必要であり、これまでは小学校児童については、部活終了後の午後6時より塾を開講していたが、部活前に時間を変更し午後3時から開講する。中学生生徒においても通常部活終了後の午後7時45分から開講しているが、部活を行わない日については、午後5時30分より開講することで、入塾しやすい環境づくりの構築を図る。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
・塾の開講時間を児童・生徒に合わせて柔軟な対応ができるように工夫を行う。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
26,563	25,783	20,626	5,157	780

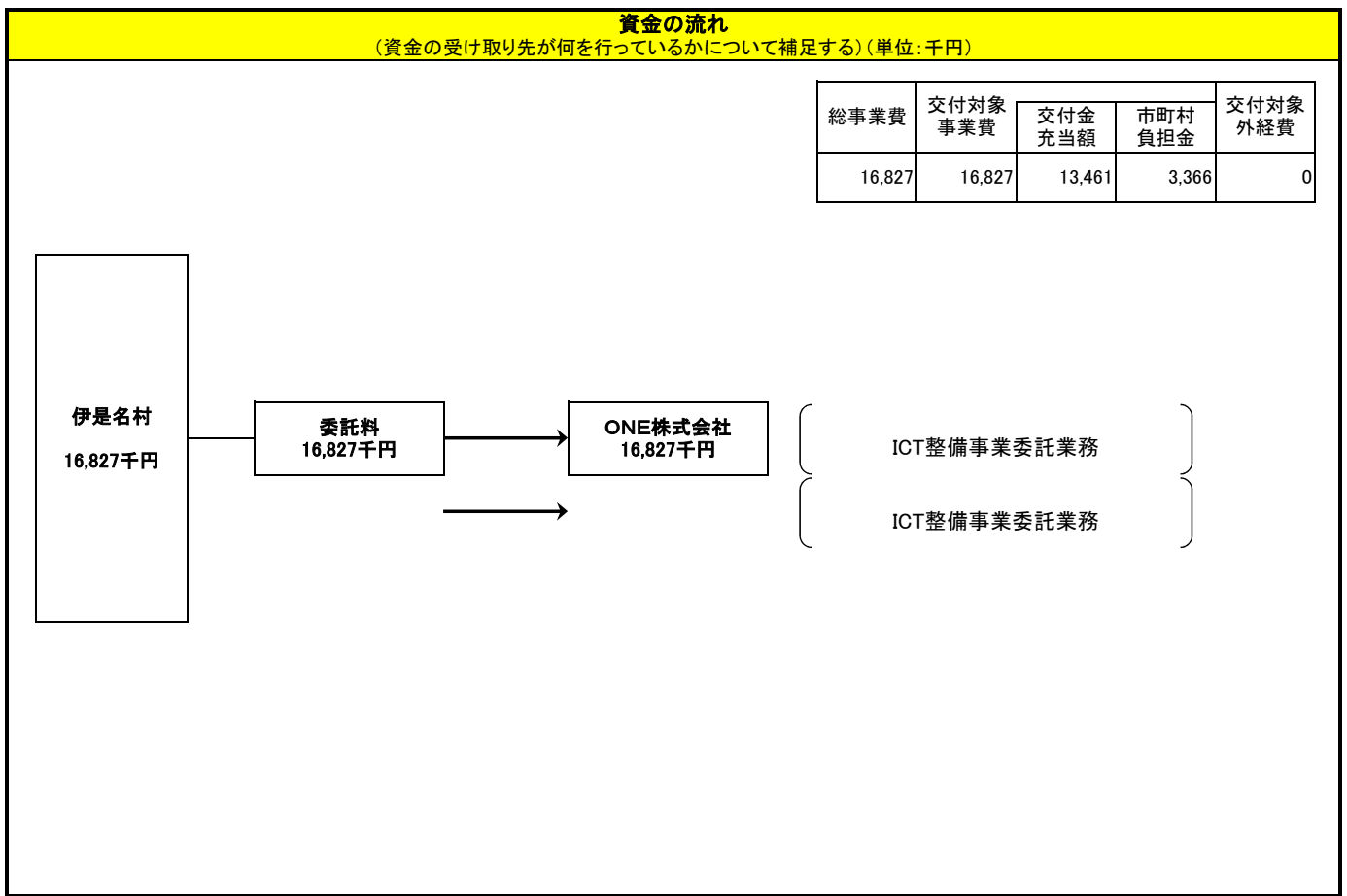
```

graph LR
    A[伊是名村  
25,783千円] --> B[共済費  
870千円]
    A --> C[賃金  
6,048千円]
    A --> D[委託料  
18,865千円]
    B --> E[社会保険事務所  
870千円]
    C --> F[学習支援員  
6,048千円]
    D --> G["(一社)教育振興会  
18,865千円"]
    E --- H["学習支援員社会保険料  
(3名)"]
    F --- I["学習支援員賃金(3名)  
交付対象外経費780千円"]
    G --- J["学習支援事業委託業務  
学習塾開講、特別学習支援員の配置"]
  
```

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については村の例規に則って選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についてもほぼ見込みどおり執行し、適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要な経費となっており、毎月の報告書等により確認、適正と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
<b>令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	3-⑥	学校ICT推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-7			
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童生徒の情報活用能力を高めるため、ICT環境整備及びICT活用支援員を配置し、ICT機器を活用することでより分かりやすい授業を展開し児童生徒の学力向上及び情報活用能力の定着を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a) 当初予算額					16,730	
	(b) 予算現額					16,830	
	(c) 増減額(b-a)					100	
	(d) 繰越額					-	
	A. 計(b+d)					16,830	
	B. 執行済額					16,830	
	うち交付金充当額					13,464	
	次年度繰越額					0	
	執行率(%) (B/A)					100.0%	
予算の状況の説明	本年度は、計画どおり執行し適正であったと考える。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	無線LAN環境整備 タブレット購入設置 一式	目標	( )	( )	( )	( 実施 )	
		実績				( 実施 )	
	ICT活用支援員	目標	( )	( )	( )	( 1人 )	
		実績				0人	
達成状況説明	今年度は、無線LAN環境整備及びタブレットも購入等については、整備することができたが、ICT活用支援員については村内外へ周知し募集を行ったが配置するに至らなかったがICT機器導入を行った結果、児童生徒分かりやすい授業を展開し学校教育のスキルアップを図ることができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	①児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( 80% )	( )
		実績				92%	
	②教員へのアンケートを実施し、ICT機器の習熟度が上がった(ICT機器を活用できる)と答えた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( )	( 80% )	( )
		実績				95%	
	進捗状況説明	児童生徒へ「ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか?」教員へ「ICT機器を活用できる?」について、それぞれアンケート調査を行った結果90%以上が【分かりやすかった】及び【ICT機器を活用できる】との肯定的な意見であり目標を達成したと思われる。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・今年度は、ICT支援員の配置に向け取り組んだが未配置となったため、募集等の強化を図る必要がある。	・ICT支援員を配置し、学校教員の更なるICTスキルアップの向上を図ることによりわかりやすい授業の展開し学校教育の質の向上が期待される。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
・ICT支援員の配置に向け、早い段階からホームページ及び防災無線等で村内外へ周知しICT支援員の確保へ努める必要がある。 ・児童生徒へICTを活用した学習への興味・関心を高めることを目的に生徒向けのアンケート調査等を行い、調査を踏まえてICT支援員と学校教員が連携して授業内容について検討していく必要がある。		



資金の流 れ、費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については村の例規に則って選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についてもほぼ見込みどおり執行し、適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要な経費となっており、毎月の報告書等により確認、適正と考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

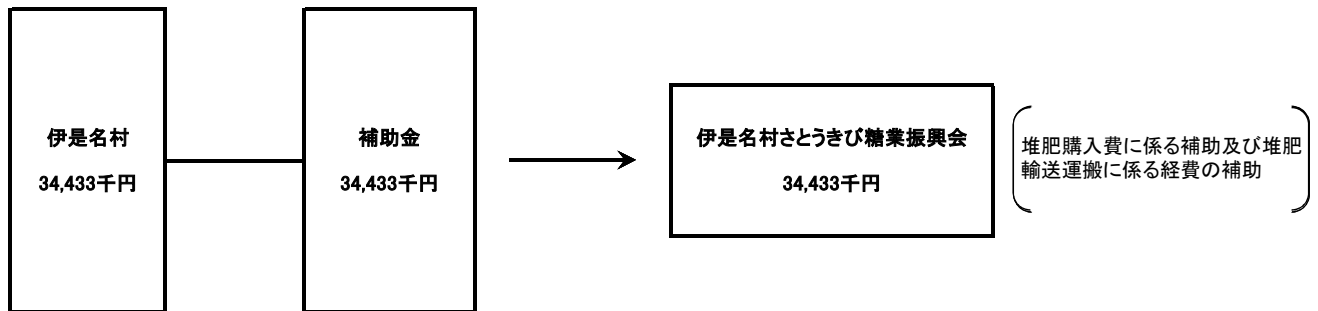


市町村名		伊是名村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 伊是名村土づくり支援事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-イ		
	担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産の振興	
事業内容	安定的な有機肥料の供給による土づくりの促進及び農作物の生産性の向上のため、沖縄本島からの堆肥購入費用及び輸送費用を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,120	43,900	35,984	42,552	34,128
		(b) 予算現額	32,960	53,976	35,984	34,308	34,433
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,160	10,076	0	▲ 8,244	305
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		32,960	53,976	35,984	34,308	34,433
	B. 執行済額		32,960	53,976	34,452	34,308	34,433
	うち交付金充当額		26,368	43,180	27,561	27,446	27,546
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	95.7%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		10月からの消費税増税により305千円の増額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	堆肥導入数量:2,000t		目標 ( 3,000t )	( 2,000t )	( 2,000t )	( 2,000t )	
			実績 3,000t	2,000t	2,000t	2,000t	
達成状況説明	圃場への堆肥散布時期に合わせた導入ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	さとうきびの単収:5,400kg		目標 ( ) ( )	( 5,484kg )	( 5,400kg )	( )	
			実績	5,480kg	4,754kg		
	進捗状況説明	・目標値には達していないが、約88%と概ね達成したと考える。約12%の要因として、生育旺盛期(6月、7月)の日照不足と生育後期(10月、12月)の降雨が少なく圃場へ散水等を行ったが、収量に繋がらず減少となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風や降雨が続くと圃場の肥料分の流亡が起こるため、新植圃場のみでなく、株出し圃場への散布を推進し、連年散布を実施する必要がある。</li> <li>・平成30年度の台風の影響で更新圃場が増えたので、散布面積は前年に比べ6ha増となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携し、新植圃場、株出しほ場への適量散布の周知を行い、有機堆肥による土壌づくりを促進し、連年施肥による土壌の改善を図る。</li> <li>・農協、村、農家で情報を共有し、講習会等を行い、堆肥散布後の適期肥培管理を実施し、収量増量を図っていく。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農協、村、農家で情報を共有し、新植圃場や株出し圃場への適量散布を行い連年施肥の推進を図ってくとともに、散布後の適期肥培管理の周知を実施し、台風や降雨に強い作物の生産を図る。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,433	34,433	27,546	6,887	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交付要綱に適合する補助対象事業者への支出となり、妥当である。</li> <li>○予算規模は必要量と供給量の比較により妥当である。</li> <li>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であったと考える。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	伊是名村優良繁殖雌牛導入促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成31～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産の振興		
事業内容	計画的に優良繁殖雌牛を導入する肉用牛繁殖農家等に対し、導入費用の一部を助成し、飼養頭数増加と農家経営の安定化に向けた取組を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H25年度	H26年度	H28年度	H29年度	R1年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	10,800	22,500	2,800	4,800	2,000
		(b) 予算現額	10,800	16,920	4,732	4,800	2,000
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 5,580	1,932	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		10,800	16,920	4,732	4,800	2,000
	B. 執行済額		10,800	16,920	4,732	4,696	1,600
	うち交付金充当額		8,640	13,536	3,785	3,756	1,280
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	97.8%	80.0%
予算の状況の説明		当初、優良雌牛導入5頭分を計上していたが、1頭導入することができなかったため4頭分の1,600千円の執行となった。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H26年度	H28年度	H29年度	R1年度	
	優良繁殖雌牛の導入		目標 ( 確保 )	( 7頭 )	( 12頭 )	( 5頭 )	
		実績	確保	11頭	12頭	4頭	
達成状況説明		豚コレラの影響で子牛のセリ価格は低下傾向にあったが、優良雌牛のセリ価格は高値となっており、農家がセリにて落札することができなかったため4頭の導入となった。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R1成果目標(指標)		基準値(年度)			R1年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差103%以上		目標 (      )	(      )	(      )	( 103% )	(      )
			実績			102.6%	
進捗状況説明		令和元年度の導入した優良母牛から生まれた子牛の平均販売価格655千円、そうでない子牛の平均販売価格638千円となっており、価格差102.6%となった。					

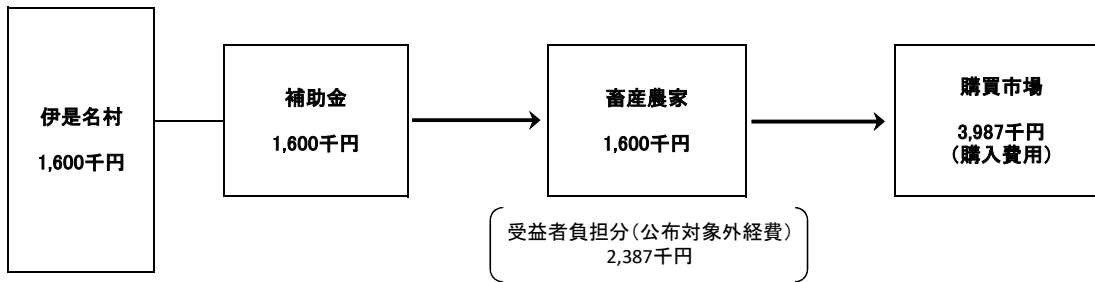
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	血統や種雄牛の組み合わせや、子牛出荷時の体重、平均増体量のばらつきが販売価格が伸び悩む要因だと考えられる。	血統や種雄牛の組み合わせ、飼養管理等の情報を関係機関等で共有し、育成技術の向上を図り、市場評価の高い子牛を生産する必要がある。

**今後の取り組み方針**

畜産農家の飼養頭数増加と経営安定化に繋げるために、農家、村、JAおきなわが連携して、血統の組み合わせや、疾病対策等の情報を共有することで、市場評価の高い子牛を生産し、生産基盤の強化を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,987	1,600	1,280	320	2,387



資金の用途の流れ、費用・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に適合する補助対象事業者への支出となっており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○導入実績、計画等を踏まえた予算規模となっており、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助率を1/2として農家にも一定の負担が生じていることから、妥当と考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。